

## 蝶々の蜜採り

石 原 三 重

蝶々のお家は黄色い菜の花畑の中でありました。お父さまの蝶々も、お母さまの蝶々も、ただですが、次々に赤ちやんが生れて大勢で賑かなお家になりました。

蝶々さんは三番目に生れた可愛らしい女の子でした。黄色いお洋服を着て、頭には長いリボンを結んでゐました。

今日は蝶々さんのお誕生日です。

お友達をみんなお招きするのになつてゐました。

蝶々さんはお兄様やお姉さまの蝶々も御一緒に朝早くからお部屋のお掃除を始めました。大きなテーブルの上には白いテーブルクロスを掛けて色々のお花できれいに飾りました。

お母さまはお臺所で一生懸命御馳走の御用意をしておつしやいます。

「蝶々さん、蝶々さん。」

「お母さまはおやさしいお聲で蝶々さんをお呼びになりました。

蝶々さんはお急ぎでお母さまのおそばへ飛んで来ました。

「はい、お母さま、何の御用でございませうの？」

「あのね、蝶々さん、これからお兄さまやお姉さまも御一緒にお花畑の方へ行つて、美味しい蜜をたくさん採つて来て下さいね。」

「え、お母さま、私これからすぐ行つてたくさん採つて来ませう。」

蝶子さんはお兄さまとお姉さま二人で、蜜壺をお腰に結びつけて大喜びで出かけて行ききました。

お兄さまのは白い大きな壺でした。

お姉さまのは緑色の中くらいの壺でした。

蝶子さんのは黄色い一番小さい壺でした。

青い広いお空にお日様はニコ／＼照つてそれは／＼いゝお天気でした。

お花畑のお花もみんなニコ／＼嬉しさに笑つてりました。

三人は仲よく飛んで行つて、

お兄さまは白い大きな薔薇のお花にままりました。

お姉さまは黄色と紫色のバンジーのお花にままりました。

蝶子さんは黄色いチューリップのお花にままりました。

お兄さまは元氣を出して一生懸命で採りましたから、白い大きな蜜壺にもうすぐで一杯になりさうです。

お姉さまも元氣を出して一生懸命で採りましたから、緑色の中くらいの蜜壺にもうすぐで一杯になりさうです。

「おや！ 蝶子ちゃんが泣いてるるやうなお聲が聞えるよ。」

「ほんごに！ 蝶子ちゃんが泣いてるんだわ。」

二人はびつくりして蝶子さんの所へ飛んで行つて見ました。

可愛いさうに蝶子さんはチューリップの中でシク／＼泣いてりました。お洋服もエプロンも涙ですつかり濡れてりました。

「まあ、可愛いさうに蝶子ちゃん、ごうしたの？」

「お兄さま、お姉さま、私、大切な壺をどこかへ落してしまつたの」

「まあ！ それは可愛いさう！ きつ／＼探してあげますよ。さあ泣くのをよしてお洋服やエプ

ロンを乾かしまして。お風邪をひくミ大變だから」

「蝶子ちゃん、大丈夫よ、僕達で美味しい蜜をたくさん採つてゐるから」

お兄さまとお姉さまは蝶子さんを可愛がつて暖かいお日様でお洋服を乾かす間、色々ミ慰めてゐました。

丁度その時、この蝶々のお話を聞いてゐた一匹のてんたう蟲がゐました。てんたう蟲はお氣の毒に思ひましたから、大急ぎでお友達のところへ行つて、蝶子さんの壺を探し出してあげるやうにお願ひしました。お友達はみんな喜んで、お手々をつないで長い列になつて探し始めました。

お花畑から野原の方へ行つてゐるミ、タンポ、ミタンポ、のお花の間に、黄色い小さい蜜壺が落ちてゐました。

「あつ、これだく、これにちがひない」

「早く蝶子さんのお家へ持つて行つてあげませう」

みんなでエッサくミ運んで、たうく菜の花畑の蝶子さんのお家まで來ました。御門の戸を開けやうとした時、お空の方から

「てんたう蟲さん！　ありがとう！」

「てんたう蟲さん！　ありがとう！」

ミ呼ぶお聲が聞えます。

蝶子さんがお兄さまとお姉さまと一緒にお家へ歸つて來たのです。

蝶子さんのお父さまもお母さまもお家から出ていらして、てんたう蟲さん達によくお禮を仰言いました。

その晩、六時からのお誕生のお祝ひ會には蝶子さんのお友達の他に、大勢のてんたう蟲が來てゐました。

蝶々ミてんたう蟲は仲よく並んで、色々のお馳走を頂きました。

おもしろいお話も聞きました。

おもしろいお歌もうたひました。